



品質管理部品質管理課

新木 享宏さん

理工学部環境ソリューション工学科卒 入社9年目

日本水道協会検査実績（台数）トップを達成

まず、清水合金製作所について「当社は昭和22年に銅合金の鑄造所として創業、その後、機械部門が発足し、バルブの製造を始めました。大きな転機としては昭和56年に西ドイツの会社と技術提携し日本で初めてソフトウェア仕切弁を製造・販売したことです。現在は一般用バルブから特殊バルブまで幅広く製造していますが、公益社団法人日本水道協会（以下日本水道協会）の検査品である一般用バルブが7割を占め、検査台数では業界トップとなっています。新水道ビジョンに沿って

耐震用バルブや小規模集落用水処理装置などにも注力しています」と概要を説明する。

入社までの経緯は「就活については、まず自分が学んだ環境ソリューションを活かせるところを目指していました。当時は公営企業を中心に探していたところ当社に出会い、水処理事業部を立ち上げ、小規模集落の給水問題に取り組んでいる事を聞き、自身が学んできた事を活かせ、さらに自身が成長できることもに、業務を通じて社会に貢献できることが決断の後押ししました」と述懐する。

客先からのクレームにも対応

究極の目標はクレームゼロ 全社的な品質管理を担当

現在の所属は、品質管理 部品質管理 課。業務内容は「大きくは全社的な品質の管理です。製

品そのものよりも、部品の調達、材料の購入、各製造工程の管理も行います。日本水道協会の検査業務への対応も重要な業務です。受検に備

えて製品の検査や書類の作成などを行います。さらに、お客様からの苦情対応も担当しており、クレームの原因を調べ再発防止策を講じます。成果がすぐ目に見える職種もありますが、我々の仕事は短期間では成果が見え難く、短期目標が定め難い職種です」と語る。

他部門の仕事に対する理解を深めた

当初は技術職で入社し、7年間にわたり特殊弁の開発部門に在籍した。

「前職ではバルブのことを色々勉強させていただきました。その経験はこれからの仕事に役立つと思います」と異動をボジティブに捉え、「お客様が満足し、安心して使

って頂ける製品を世に出せるような検査体制の構築、仕組み作りにも携わりたい。究極の目標はクレームゼロです。そのためには他の部門の仕事に対する理解をさらに深めなければならな

いと思っています」と今後の目標を語る。

は、水道管路の中で重要な役割を果たすバルブの企業であるとともに、常に新しい技術・製品を模索するチャレンジ精神旺盛な会社です。社員も全社で160人程度ですが、全員の意思疎通が比較的容易で、一丸となつて働きやすい環境です。昨年創業70周年を迎えた歴史ある会社ですが、まだまだ成長ポテンシャルを秘めていると思えます」と同社の強み、魅力を紹介し、「これから社

会人となる学生さんには、色々な会社の説明会に参加し、最も魅力のあるところを選んでいただきたいと思います。それが当社だったら嬉しいですね」と結んだ。



検査から工程管理まで幅広い業務に取り組む